

注意事項や参考事項

注意事項

- 登山者カードを記入して各登り口の登山箱に入れるか、最寄りの警察へ登山計画書を必ず提出してください。
- ラジオや携帯電話などを携行し、随時情報等を収集するようにしてください。
- 登山道以外の立ち入りは禁止です。
- 地震や地鳴り、鳴動からの異常を感じたときは、慌てず速やかに下山してください。
- 火山活動に異常が発生した場合は、入山者に対し、ヘリコプターやラジオなどで下山を呼びかけますので、その際は直ちに下山してください。

噴石、降灰から身を守るには

全国には沢山の活火山があり、数々の噴火災害を経験しています。これまで経験した噴火災害は様々で、火山の近くで避難しなければならない溶岩流や火砕流といった災害だけでなく、噴石や火山灰などの広い地域に影響を及ぼす災害もあります。

噴石、火山灰は、基本的には屋内に避難するなどの身を守る行動で被災をまぬがれることができますので、どのように身を守ればいいのか、参考としてください。

○噴石

大きな噴石は、風の影響を受けずに火口から弾道を描いて飛散して短時間に落下し、建物の屋根を打ち破るほどの破壊力があります。被害は火口から2～4キロメートル以内に限られますが、噴火警報などに従って火口に近づかないことが重要です。

もし、噴火の兆候を感じた場合には速やかに火口から離れることが必要です。噴火に遭遇してしまった場合の対応は難しいですが、速やかに避難小屋や大きな岩陰に身を隠すことで被害を軽減できる可能性があります。

小さな噴石は風下に流れ、落下するまで時間がかかります。風下側では屋内など退避することで被害を防げます。

◇登山装備として、ヘルメットを用意しましょう。

◇自分のいる場所が火口からどの方向にどれくらいの距離かを知っておきましょう。

(防災マップや地図であらかじめ確認しておきましょう。)

○火山灰

火山灰（直径2mm以下）は、体内に吸い込むと咳や呼吸困難など呼吸器に影響を与え、目のかゆみ、傷みや充血を引き起こします。

◇登山装備として、ゴーグルやマスクを用意しましょう。

◇ゴーグルやマスクを持参していない場合は、口に布を当てるなど、火山灰が入らないよう行動しましょう。

各活火山において異変に気付いた場合

噴気量の増加、異臭、振動など異変に気付いた場合は、安全のため速やかに下山してください。